知行院便り

発行／宗教法人知行院　東京都世田谷区喜多見5-19-2　TEL 03-3417-3456 FAX 03-3417-3000

ごあいさつ

知行院住職　坂本観泰

お正月が近づいてくると不思議と気持が高まります。実際、十一月に入ると最初の酉の日に、各地の神社仏閣で「酉の市」が開かれ、街中にも高揚感が漂い始めます。

そもそも、この「酉の市」は鷲神社の祭礼で、お祀りされている日本武尊は、開運、商売繁盛の神として古くから信仰されています。関東では久喜市の鷲宮神社が本社で、この社を中心に「酉の日精進」の信仰があり、それが「酉の祭」の始まりで次第に「酉の市」になったようです。

江戸時代には、現在の東京都足立区花畑町の鷲神社が栄えて、参詣の人がニワトリを献じて開運を祈り、終わると浅草観音堂に放ったそうです。

「酉の市」の立つ日には、おかめや招福の縁起物を飾った「縁起熊手」を売る露店が立ち並びます。これは福を「掃き込む、かきこむ」との洒落にことよせと呼ばれているそうです。

本年の干支は「丁酉」です。酉のつく年は「取り込む」に繋がることいわれ、そこから運気もお客も取り込めるということから商売繁盛に繋がると考えられています。また酉の由来に「果実が極限まで熟した状態」という意味があり、物事が頂点まで極まった状態が、酉年だとも。

「桃栗三年柿八年」や「石の上にも三年」などのことわざもありますが、今年は住職就任三年の締めくくりの年、酉年にあやかって少しずつでも成果をお見せしたいと思っています。

面のお不動さんのところで手を合わせていただきます。

実はこうしたやり方は、他ではあまり為されていないのですが、私の師匠の即真尊靈師に相談して、皆さんの思いがより本尊さまに届きやすいような形式にしたのです。

聞き手　参加する時は、どのようにしたらいいでしょうか？

住職　毎月二十八日の午前十時から行っていますので（二十八日が日曜日の場合は午後一時から）、その日に来ていただけばと思います。何か特別な祈願がある時は、お札を用意しますので事前にご連絡が必要ですが、通常は十五分くらい前に来ていただければ充分です。終わった後、ご供養として、皆さんと一緒にお茶をいただく時間もあります。ぜひお気軽に来て、護摩を体験していただければと思います。

護摩祈願の護摩木とお札

国立劇場開場五十周年記念公演

十月二十九日　東京・半蔵門の国立劇場において国立劇場開場五十周年記念公演「声明　比叡山と高野山」が開催され、天台雅楽会に所属する住職は厳粛な法要を更に荘厳に彩る雅楽を演ずる楽人として参加しました。

国立劇場では昭和四十一年会場以来、各宗派の声明やその音楽的要素を活かした新作声明などを、様々なテーマで声明の魅力を紹介されてきました。前住職も何度も参加してきた公演です。

今回は慶讃祝祷の為に厳修される天台宗顕教法要の最高の儀式として知られる「四箇法要」が上演され、「梵音」「三條錫杖」といった一般寺院では執り行われない珍しい声明も披露されました。

ご案内

「跡継ぎがいなくても墓地を残したい」

近年、少子化が進む中、跡継ぎがいらっしゃらないというのが、当たり前の時代になってきました。知行院のお檀家さんの中にも、そうした方が少なくなく、ご自身が亡くなった後、お墓がどうなるのか、ということが不安で、相談に来られる方も多くいらっしゃいます。

今後、こうした方が増えていくことが予想され、お寺としても、そのような方々の不安をどうにかして取り除きたいと考えておりました。

そこで知行院では、希望する方に、跡継ぎの無い方が亡くなった後も一定期間（十二年間）、墓地を残しておき、その後、墓地に納骨されていた全ての遺骨を永代供養墓に移し、さらに永代にわたってお寺が供養をする「逝去後の墓地保存」を行うことにしました。

ご自身が亡くなった後のお墓のことが心配だという方は、お寺までお気軽にご相談ください。費用等も含めご説明をいたします。

逝去後の墓地保存について

① 墓地の持ち主が亡くなって所有者不在となっても、すぐに墓地を撤去しないため、自分が先祖代々のお墓に入ることができる。

② 墓地の持ち主が亡くなって所有者不在となっても、すぐに墓地を撤去しないため、縁者が先祖代々のお墓にお参りできる。

③ 一定期間（十二年）が過ぎたら、永代供養墓に改葬されるので、永代にわたって供養をしてもらえる。

三代で四二八年のご本尊
――知行院の歴史とともに

知行院の本堂の仏さまの配置が変わりました。その理由と意味について解説していただきました。

――今度、本堂の仏さまの配置を変えることになったということですが、何がどう変わったのでしょうか？

住職　これまでは、真ん中にご本尊の薬師如来が安置されて、そのすぐ右に日光菩薩、左に月光菩薩というかたちの形式でした。今度は、さらにその外側の右に阿弥陀如来、左側に観音菩薩を配置して、五体の仏さまを安置することになりました（一ページ目の写真）。

――この阿弥陀さまと観音さまは、新しい仏像なのでしょうか？

住職　いいえ、実は知行院というお寺は、これまで四百二十八年の歴史の中で、本尊が二回変わっているのです。はじめは観音さま。この観音さまはいつから本尊なのかは不明ですが、天正十六年（一五八八）に既に知行院にあったという記録があります。

　それが享保十年（一七二六）に阿弥陀さまに変わっています。さらに現在の本尊の薬師さまは明治二十年に、廃仏毀釈で廃寺となったお寺から知行院におさめられました。そして明治四十一年に本尊となります。

　天正から享保まで百三十八年、享保から明治まで百六十二年、明治から現在まで百三十六年。つまりこの三体の仏さまが四百二十八年の間、交代で知行院の檀家さんを見守ってきたということです。

――どれも、もともとは知行院のご本尊だったのですね。

住職　実は知行院では、平成八年に新しい本堂を建立した時、前の小さい本堂で使っていた荘厳をそのまま使うことにしました。そのため、本堂の大きさと荘厳の大きさがあわず、ご本尊の周りに空間ができて、ちょっとアンバランスになってしまっていました。

　丈六（一丈六尺／四・八五メートルの高さの仏像）の大きな本尊を新たにつくるという話もあったのですが、知行院の歴史をひもといて、ご本尊が観音さまから阿弥陀さまになり、次に薬師さんになったという歴史があります。その歴史をそのまま本堂に表現して、観音さまと阿弥陀さまを安置して、知行院式の三尊形式にしたらどうかということになったのです。

　しかし実際に並べてみるまでは、ほんとうにこの本堂にあっているか、私も半信半疑でした。ところが、仏さまを並べてみたら、これがぴったりなのです。初めから、この配置にあわせて本堂を建立したかのように感じました。

――そんなにぴったりだったのですか？

住職　そうですね。それにこんなこともありました。

　観音さま、阿弥陀さまを安置することを決めてからしばらくして、本堂でお勤めをしていた時、ふと本堂の天井からぶら下げている幢幡（どうばん）（金色の旗）に眼をやりました。そうしたら、その左右の幢幡に「南無薬師如来」と「南無阿弥陀仏」と書いてあり、その周りに観音経が書いてありました。この幢幡は、先々代の住職がつくったものですが、これを見て驚きました。観音さまと薬師さまと阿弥陀さま。もしかしたら、先々代もこの三体の仏さまに何か深い思いがあったんじゃないかと思ったのです。そして先々代が、観音さまと阿弥陀さまを内陣に安置するように言っているようにも思えました

――それは縁を感じますね。

住職　知行院の歴史を見守ってきた三体の仏さまに手をあわせるというのは、私自身、ロマンを感じますね。ちょんまげを結っていた人が拝んでいた仏さまに、手を合わすのですよ。しかも縁もゆかりも無い人ではなく、皆さんのご先祖さまも、この仏さまたちに手を合わせていたのですから。

　その意味では、この仏像を通して、先祖さまとのつながりを感じてもらいたいと思います。お墓参りに来た時には、ぜひ本堂にあがっていただいて、ご先祖さまも手をあわせた仏像であることに思いを寄せながら、手をあわせていただければと思います。

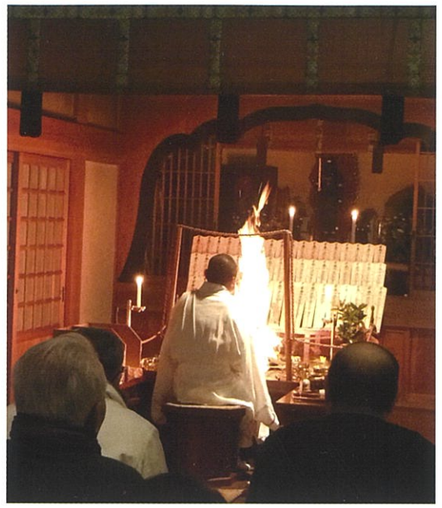
　四百二十八年の間、皆さんのご先祖さまを見守ってきた三体の仏さまです。より、親しんでいただけたら嬉しく思います。

（聞き手　薄井秀夫）

教えて、住職さん！
第一回　護摩って何ですか？

お寺のこと、仏教のことで、知ってるようでよく解らないことを、ご住職にインタビューして、教えていただきます。第一回目は、護摩（ごま）について解説していただきました。

（聞き手　編集担当　薄井秀夫）



聞き手　知行院では、毎月二十八日に厄除不動大護摩供という行事を行っているようですが、この護摩というのは、どのような儀式なのでしょうか？

住職　護摩というのは、もともとインドの古代語であるサンスクリット語の「ホーマ」という言葉から来ています。お供物を焼いて本尊に供養する儀式のことを言い、智恵の火で迷いの薪（たきぎ）を焼くことを意味します。

聞き手　火が私たちの願い事をかなえてくれるということですか？

住職　火が願いを叶えてくれると皆さん思いがちですが、火は私たちの中にある悪いものを焼きはらい、私たちを清浄にするためのものです。

　同時に火は、備えたお供物を仏さまに届けるための方法でもあります。象徴的にお供物を燃やすことで仏さまの世界に届けることができるのです。願い事をかなえてくれるのは火ではなく、あくまでも本尊さまです。護摩に参加する時は、火を見るのではなく、火の向こうの本尊さまを見るようにすることが大切なのです。

聞き手　本尊さまというのは、お不動さんのことでしょうか？

住職　そうですね、知行院の護摩では、本尊さまは不動明王です。他では、比叡山の根本中堂の護摩では薬師如来に祈願しますし、観音さまに祈願するお寺もあります。ただ、お不動さんは、もともと火の中にいらっしゃるということもあり、お不動さんが一般的ですね。

聞き手　護摩というのは、どんな時に参加すればいいのでしょうか？。

住職　護摩に参加されている方は、何かご祈願がある方が多いです。息災延命とか、家内安全、身体健全、病気平癒、合格祈願、商売繁盛など、いろんなご祈願をされています。また、特に祈願したいものは無くても、自分自身の菩提心を深め、本尊様にお祈りしたいという気持ちで参加される方もいますね。私は、人それぞれの理由があっていいと思います。

　ただお参りに来た時は、皆さんも一緒にお経や真言を唱えていただけると嬉しいですね。やはりご自身で唱えると気持ちが入りますから。

聞き手　知行院の護摩には、何か特徴があるのでしょうか？

住職　知行院では、皆さんにもできるだけ儀式に参加していただくようにしています。儀式の終わりのほうで、それぞれが願い事を書いた護摩木を持って中央の護摩壇にまで来てもらい、自分で火の中にくべていただきき、その後、正

（次ページに続く）

護摩で火にくべる護摩木とお札